



# 卓話

## 卓話

### 「Chat on the Table」

今年度第1回炉辺会合は、すべての班が昨晚終了しました。

テーマ「出席率の向上について」の報告によりますと、次の2項目が特に注目されます。

①出席率を向上させるとしてもまずは100%を目指すわけではないので、たとえば10%の上乗せ、つまり6名強の出席増を目指す。

②出席特例適用会員を含めたベテラン会員は別として、入会10年以内の会員（28名）の出席率改善を重点的に考える。

この2項目を踏まえて、特に次の2項目のいずれかの方法についてより具体的に討議していただく。

討議に先立ち、テーブルリーダーを各テーブルで決めていただき、15分討議した上で概要をまとめる。

最後に各リーダーより概要を発表していただく。

①欠席がちの会員へ声を掛けて、出席する機会を増やす方法。

②メークアップをする機会を増やして、結果的に出席率を向上させる方法。

#### ◇酒井 宏人班

- ・メークアップ申請紙をもっと活用する。
- ・オリエンテーションで出席の重要性を伝えメークアップの仕方も詳細に教える。
- ・車でくる人に途中で乗っけてきてもらうよう声をかける。
- ・メークアップについて

たとえばホテルごとに他クラブの例会情報を出したり、ビジターフィーを掲載したりした、詳細な資料をつくってみればどうか。

- ・入会から一定期間受付を義務付ける。

#### ◇小林 久子班

- ・出席に問題のない会員が1/3、多少問題のある会員が1/3、残り1/3が殆ど出席のない会員と分類できる。
- ・卓話の内容を充実させRCでしか聞けないという期待をもたせる。
- ・新入会員を親睦委員としてより出席機会を増やし融和を図る。

- ・メイクアップが増えるようにサポートする。

#### ◇辻 明信班

- ・少人数での炉辺会合（ミニ炉辺会合）を多く開催し、機会を増やす。
- ・地区委員会への所属の勧誘を適宜行い、メークアップの機会を増やす。
- ・入会年数の浅い会員に対し、親睦委員会に所属させ、月1回の委員会開催で巻き込みを図る。
- ・入会年数の浅い会員に対し、役割を与え、義務的に出席の機会を与える。
- ・入会年数の浅い会員に対し、紹介者が暫くの間出席の声掛けを続ける。
- ・入会年数の浅い会員に対し、他クラブへのメークアップに誘い機会を与えると共に、他クラブと当クラブとの違いを勉強いただき、ロータリー活動の楽しさを味わってもらう（出来れば友人の所属するクラブとする）。
- ・入会年数の浅い会員に対し、上記3～6以外にもメークアップの方法を知らしめ、出席率の向上に努めてもらう。

#### ◇武田 京子班

①欠席がちの会員へ声を掛けて、出席する機会を増やす方法

- ・原則は、本人の意思次第であるが、休み癖がつくと出席しづらいので、会長、幹事、そして親しい方が例会に出席を呼びかけて、誘うようにしてはどうか。
- 欠席がちの会員にお役をつける。（ex 地区委員会へ派遣する）

②メークアップをする機会を増やして、結果的に出席率を向上させる方法

- ・メークアップの範囲を広くする。
- 例えば、社会貢献の会合出席のため、ロータリーを欠席せざるをえない場合、ロータリーの目的の一つに社会貢献があるので、公的な地域活動、またロータリーとしての活動でなく個人の社会貢献目的で行動した時も、メークアップ扱いにしてほしい。
- ・ミニ炉辺会合の開催を認める。
- 毎月1回程度、テーマを設けない数人の自由意思に基づいた炉辺会合を開催し、融通のきくメークアップを認める。
- ・欠席がちの会員が、出やすい同好会（例えば趣味、囲碁など）を作り、メークアップ扱いにする。
- ・メークアップ扱いにできる欠席理由の検討をしてほしい。

メーキャップ範囲拡大と重複するが、地域活動、社会貢献活動による欠席をメーキャップ扱いにする。

## 第1回炉辺会合 「例会出席率の向上について」報告

### ◇第1班 酒井 宏人会員

○日時、開催場所

10月26日(水) 6時30分より、新宿「炭火焼かこみ」にて

○参加者

太田会員、佐々会員、寺主名誉会員、安田会員、酒井会員

○記事要旨

主だった意見は次のようなことでした

- ・法人会などの別会合で会った際には声をかける。
- ・スポンサーは責任を持って声をかける。
- ・メーキャップをしてもらう。
- ・メーキャップの定義をゆるくして、融通を利かす。
- ・新入会員は入会から一定期間、受付を行い、会になじむようにする。
- ・オリエンテーションなどで出席の重要性をアピールする。

○まとめ

- 1、普段あまり出席しない会員に会った際には必ず声をかける。
- 2、メーキャップを積極的に活用する。
- 3、新入会員に対して、会になじみやすい環境作りをする。

### ◇第2班 秋葉 賢一会員

開催日時 10月26日(水) 午後6時30分～午後8時30分

○開催場所 信濃町 八千代鮎

○出席者

米山、近藤、内藤、牛尾、猿渡、西浦、廣嶋、山本、武田、秋葉の各会員

以上 10名(敬称略、順不同)

○議事要旨

出席率の改善策には2つの方策が考えられる

#### ① クラブとしての改善策

例会時間の見直し

一昼の開催から夜の開催へ

一昼と夜の半々の開催

一夜間例会の復活

夜間例会への出席者は平均20人前後で経費問題も含め夜間での例会開催は見送る方向。

・メーキャップの促進

他クラブでのメーキャップは当然実施されていると思われるが、各種の親睦会等のメーキャップは確実に行われていないようなので、確実に実施する方策をとる。

・欠席がちな方々への役職の任命

欠席が他のメンバーへの負担になっていることを自覚して活動していただくためにクラブの要職を任命して活動していただく。

・例会への遅刻に対する緩和

少しの遅れに対する柔軟な運用を考え出席しやすい環境づくりを行う。

・外部卓話者の招聘

お金がかかるが、ぜひ聞きたいと思われる卓話者の招聘を検討する。

・女性会員の入会促進

2-3人の増員でクラブの活性化が図かれると考え入会の促進を図る。

・ジュニア会員の入会促進

70歳以上の会員はジュニア会員も入会できることを今後の検討課題とする。

・100%以上の出席率を持つ会員の出席率をカウント数に入れる

例会100%出席更に親睦会等への出席で無駄になる100%以上の出席率をカウント数に入れる。今後の検討課題とする。

・2580地区への報告者は出席委員長が行う

事務方での報告では担当の負担が考えられるので、出席委員長の責任で行う方向で考える。

・欠席の多い会員へのクラブからの確認

会長等の役員からクラブ活動への参画の確認を行う。

・クラブの顔となる方の入会促進

例えば石原都知事のような当クラブの顔になり会員が会いたくなるような人材の入会促進をはかる。

#### ② 個人に係わる改善策

・欠席がちな方への例会出席への呼びかけ

たまに来た方へのお声掛けの実践(居場所を与える)。

・車で出席する方による例会出席への呼びかけの実践

仲間を同乗させることで出席者を確保する。

・親睦会を活性化させる

大げさな会ではなく身近な集まりを活性化させる。

・クラブの仕組み等の説明

クラブの仕組み等新しい会員へのケア活動を行う。

### ◇第3班 廣本 慶一会員

○日時：平成17年10月24日(月)

18:30~20:20頃

○場所：ホテル ルポールB1 「レスカル」

○出席者：9名 幹事：安田 大野 カイテル 川原 坂本 曾我 根岸 向山 廣本の各会員  
(ロースター順)

○議事要旨

大野班長の司会で、各自が出席率向上についての現状感じていることや対策について意見を出し合いました。出された意見の要旨は、次のとおり。

- ・まずは出席していない人に出席できない理由等をアンケートや直接ヒアリングをして現状を把握する。その内容を分析して、それに応じた例会の開催方法を考えてもいいのではないかな。
- ・本日出席している人たちは、例会への出席率も高いので、出席できない人の気持ちがわかりにくい。
- ・出席しないとそれが癖になる傾向がある。行かなくなると、ロータリーが遠のいてますます行きにくくなる。仲間に入りづらい。
- ・例会に魅力がない？
- ・常に100%出席することを目標としている。本人の自覚の問題が大きい
- ・来られない人に声をかける。
- ・何か役を与えてやってもらう。それによって役割の重みや楽しさを感じることができないのではないかな。
- ・集団登校ではないが、近い人たちが声を掛け合って出席する。

誘い合うことで来にくくなった人には有効であろうと思う

- ・以前のように「ドリンクコーナー」を復活させてはどうか。現状では多くのメンバーとのコミュニケーションがしづらい。
- ネゴシエーションとそれに付随するものも多い。
- ・例会の楽しい雰囲気づくりが必要。
- ・卓話はやはり重要。聞きたくなるテーマを皆で考えてみよう。
- ・卓話だけでなく、例会を楽しくする何かプラスアルファがあったほうがよいのではないかな。
- ・ロータリーのもともとの始まりは数人で集まり、その週にあったことなどを話し合ったのだから、あまり難しく考えずにそんな話をする時間を設けてはどうか。
- ・今回の炉辺がそういう場なのではないかな。ならば炉辺会合をもっと多くしてもよいのではないかな。昨年のクラブ四谷でクラブの運営に関して自由に意見交換ができたことは良かった。
- ・クラブの中でも他の委員会がやっていることがよくわからないことがある。報告だけでなく例会でももう少し詳しく紹介する時間があっても良いのでは。
- ・他クラブに訪問した時、例会は歓談の日であった。そういうクラブもある。
- ・四谷のようにプログラムがしっかりしているクラブは少ないのではないかな。
- ・海外のクラブなどはただ集まるだけ、組織的システムがしっかりしているのは日本だけ？
- ・他のクラブの例会にもっと参加してみたらどうか？

他のクラブの状況をもっと知りたい。そのために他のクラブのスケジュールなどがわかるとよい。スケジュールはすでに情報提供されているようだが、もっとPRして、面白いクラブの情報などを提供して欲しい。

- ・他のクラブを知ることは楽しい、また四谷の良さが再認識される。

- ・メーキャップする癖をつける。皆が分担してあちこち訪問するのも楽しいのではないかな。
- ・欠席者の名前を発表して出席率を上げているクラブもあるらしい。出席率の向上につながっているのだろうが、それが良いのかどうかはわからない。来ないからダメではなく、誘ってみようという気持ちでいきたい。
- ・夜間例会についてはどうなのか？

夜間例会が良い人も悪い人もいるので一概に勧められない。その分炉辺会合を定期的実施し、好きな人が集まるという形の方がよい。

上記のように、終始、和やかな雰囲気のもとで充実した議論と方策が検討されて、第3班の炉辺会合は散会となった。

## 故加藤進会員を偲ぶひととき

### 安田幹事

故加藤進会員は、昭和9年生まれで、逝去されたのが平成16年10月29日です。享年71歳。当RCの初代幹事です。趣味は1人旅。と紹介すると、何となく故加藤会員の人となりを紹介しているような感じがします。故加藤会員を偲んで黙祷したいと思います。黙祷。今回より偲ぶひとときを行うにあたっては、認証クレジットを利用して、個人にマルチプル・ポールハリス・フェローを贈ることにします。故加藤会員が会長を務められたときの幹事でした川瀬会員に代理になっていただき、米山会長からお受け取りいただきます。近藤会員に代表してお話をいただきます。他の会員の方々もお気持ちをまとめた一文があれば、お寄せください。

### 近藤会員

いろんな面をもっていた故加藤会員の思い出・エピソードを、2つ紹介します。

#### 1. 故加藤会員の川柳

俳人会のとき、どうしても名前を出したくないという彼に、自分の心をいつも詠ってみたらと。いったら、2年後に下掲の川柳を贈ってくれました。

猫が寝て 妻も寝はじめ 今日終わる  
 夜長の灯 消して夜長の 床につく  
 栄転へ 小指ひとりが だだをこね  
 久々の 化粧に子どもも あとずさり  
 消費税 払う苦勞に 貰う手間  
 かわいい子 旅をさせたら 帰らない





朝市の 手が染まりそう 茄子の色  
朝刊の 匂いに今日も 生かされる  
(せんりゅうとうさく)

「栄転へ 小指ひとりが だだをこね」は、放射線をかけるために京都に行かなくてはいけないのですが、彼から「恋人が嫌だ嫌だ」というと聞いたので「何いってんだ。一緒に行けばいいじゃないか」といったら、彼は「うまいことをいってくれましたね」といって、その後2人で京都に行き、家を持っていました。それを詠んだ句です。

## 2. 千歳工業団地の購入話

約20年前の北海道にまだバブルのあるときの話です。故加藤会員と話をしていたとき、「近頃仕事がなく、大きな仕事をやりたいな」というのです。ちょうど北海道の千歳に工業団地地であるという話がありました。北海道議員をしていたうちの社員から話を聞くと、何千億というお金が動く仕事ですが、故加藤会員に話をすると、「やりた

い」。どんどん話が進み、知事以下すべてOK。故加藤会員は「私のほうで買いますから」ということで、契約日を迎えました。当日、私の会社に全員集まることにしていたら、彼が遅れてきて、ぱっと入口のところで絨毯に手をついた。どうい

うことだと聞いたら「全部ダメになった。動きも取れなくなっ

た」というんです。おそらく買ってくれるはずの丸井と地崎組の倒産が引き金になって拓銀が潰れたことからでしょう。彼がいったとき、皆啞然とした。私は、親代わりみたいな顔をして「知事さん、済まないな。こいつがダメだっていうんだから、誰がやってもダメなんです。勘弁してやってください」といったら、次の言葉がなかった。皆さんいろんなことを考えたと思います。

やむをえなくて、会社の下のそば屋から蕎麦をとって食べた。北海道庁がどうしようかという大事なときに、手をついて「済みません。何もいけません。全部私の責任です」ばかりいったので、誰も文句はいわない。大事なことですけれども、心から済まないということが伝わる。本当に真心があったと思います。

以後、私のことを咎める人はいません。私も大変責任を感じるのですが、何かそのまま消えたということが、昨日のように思われます。

## 3. ご冥福を祈ります

故加藤会員は、最後に電話で「楽しかったよ、人生は」と歌うみたいにいって

また「死者は生者を煩わせず」ともいいました。10年前に私から聞いた言葉だということです。死んでいく者は生きている人を煩わさないよという意味です。

お葬式も何もしませんといっていたんですが、葬式はした。彼は、耳にたこができるほどガン検査の必要をいわれたのに、前立腺のガン検査はしなかった。「普通のガン検査ではわからない。だから、前立腺といわなければならない。俺は540円ケチったばっかりにこんなことになった」

といつもジョークをいっていましたが、言い終えて死んでいきました。

彼は、こちらが一言いうと三言くらい多く返すから、後で取り返しつかないようなことになり、敵を沢山作ってしまう。しかし謝り方は悪くない。心から謝る、両方もっていたと思います。

子供っぽいところがあります。本当に小学生ぐらいの感じで接してくれましたが、それが彼の持ち味だったのではないかと思います。

「かわいい子 旅をさせたら 帰らない」という句は、ごもつともな話で、うまいこといっているなと思います。

「朝刊の 匂いに今日も 生かされる」—もうまもなく死ぬだろうと思って朝になって朝刊を見ると、未だ今日は生きていたということもいって

いました。最後に、制ガン剤として放射線を浴びると1週間ぐらい死んだようになるので、どうせ死ぬなら止めたらどうかという

と、それを止めるだけの元気もないんだといっていました。壮絶な死を遂げたわけ

です。彼は情熱だけは誰にも負けないし、このロータリーを愛していたことは誰にも劣らない

と思います。故加藤会員の御冥福を祈ります。

## 移動例会報告（続き）

### ◇藤原博会員

雨もようの天気にもかかわらず、新宿末廣亭の前には、開場を待つ人が列をなし、一般の方に混り、四谷ロータリーのメンバーも大勢並びました。

今回の移動例会は趣向を変え、落語を聞きに新宿末廣亭にくり出しました。総勢51名。入口で弁当（これが豪華）とお茶をいただき、思いおもしろい席に腰を落ち着け、出陣を待ちます。このはんなりした気分がよかった。

昼の部は12時から16時まで。途中20分のお仲入（休憩）をはさみ、落語・漫才・手品・曲芸・三味に踊り、と盛沢山なプログラムを堪能しました。時々屋根に当る雨の音と、軽妙な落語を聞きながら、つい、うとうと…。なにしろ4時間の長丁場。皆さん、ちょっとお疲れ気味。でも、寄席は初めてという方も、はるか昔に何度か、という方も、おおいに笑ってストレス解消。リフレッシュされたようです。寄席の独特な雰囲気めずらしく、新宿のど真中で、ホッと息抜き。庶民のしたたかさが光る、古き良き日本を体感した味な4時間。親睦委員の皆さま、ご苦労さまでした。林先生も参加され、小林会員のエスコートでおしまいまで楽しんでおられました。

寄席のあとは少々運動不足の足を伸ばし（といってもすぐ近くの）「どん底」で、米山会長の点鐘で例会。例会のあと、食事もそこそこに、なつかしい歌を15曲ほど、湯浅さん

のピアノ伴奏で、たて続けに歌い運動しました。

昼の部、夜の部とも、ユニークでちょっとレトロな秋の一日。坂本委員長はじめ親睦委員の皆さま、おつかれさまでした。

#### ◇坂本親睦委員長

10月22日(土) 11:20・小雨パラつく新宿・末廣亭前に、総勢 51 名にも上る、わがクラブの会員・家族・留学生がゾクゾクと集結。いま、落語ブームだとかで、一般客も開亭前に 100 名以上集まり、改めてその人気にビックリ。地元の町内会員である太田さんの案内で、12:00～16:30 まで、前座から真打ちまで、落語・漫才などをタップリ楽しみました。留学生のビクトリア・朱・梁さんなども、キチンと理解して、拍手すべき処・笑う処で笑ってくれたので、ひと安心しました。

16:30 に、場所を“どん底”に移しての移動例会。安田幹事司会のもと、米山会長報告・西浦ノミニー副会長の乾杯のあいさつのあと、ドロシーも加わって、大いに食べ・呑みました。会場の“どん底”は、昭和 26 年から 54 年間も続く、歌声酒場で、酒も、食事も結構いける

店です。

17:30「四谷男性合唱隊」(辻・坂本・藤原・太田) が、ローソクの灯りの中、「灯」を歌い乍ら登場。カチューシャ・青い山脈・旅愁・ローレライ・樅の木から・赤とんぼまで、15 曲を久し振りに、大声を張りあげて、湯浅さんのピアノ伴奏もあって、大汗かきながら合唱しました。寺主さんの“山のあなたの空遠く(カールブッセ)”の原語(ドイツ)曲の披露(ドロシーは眼を白黒)。林先生、秋葉先生、大塚前会長も最後まで、楽しんで歌っておられました。“心に太陽を、唇に歌を持って”(山本有三)の言葉通り、嬉しい時・悲しい時、どんな時でも皆で大声で歌を歌うと、気持ち良く、健康になれそうな気がするものです。気持ちもひとつになります。

楽しい 2 時間は、アツという間に過ぎ、麻生ソングリーダー指揮の「手に手つないで」の大合唱を最後に、来週又元気に会おうと誓い合って、18:50 にお開きとなりました。外へ出ると雨は上って、さわやかな秋の風がほおに心地よく幸せな気分が家路につきました。参加していただいた皆さん、親睦委員の皆さん本当にご苦労様でした。